

玉造厚生年金病院広報誌

夕映え

2006 春号 vol.8

— 理念 —

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



地方病院の悩み、そして前進

副院長 千束 福司

我が国の医師数は、人口10万人に対して200人を超え、量的な面では充足されてきています。しかし、地方における医師不足など医師の地域的偏在(都市集中化)や、小児医療体制の不足などの問題に加え、近年の医療は専門分化が著しく、若手医師の専門医志向も強くなってきています。このことは、医師の全人的(ジェネラリスト)な幅広い診察能力の欠如を生じる結果となっています。少子高齢化、社会の複雑化・多様化という背景のもと、今後の医療においては、患者さまに対しジェネラリストとして診療を行うために、多様な診療科と地域保健・医療の素養を身に付けることが医師にとって不可欠となってきています。

このように、医療制度改革の中でも医師養成は極めて重要な課題であり、これを受け、平成12年12月医師法の改正により、臨床研修医制度について抜本的な改革が行われ、現在では新医療体制の基に新しい卒後研修制度(スーパーローテーション)が平成16年4月より実施されています。

しかしながら、ジェネラリスト育成を最大の目的とした新制度にも拘らず、結果として以前にも増して若手医師の地方離れ(都市集中化)に拍車がかかる結果となってしまっています。そのため山陰においても島根大学や鳥取大学で若手研修医師の不足が生じ、大学の医局の維持が困難となってきています。そのため、大学から地方の病院への医師の派遣が不十分であったり、派遣自体が

中止された病院もあるようです。

当院においても同様であり、大学からの医師の派遣が中断されたために、リハビリテーション科、神経内科、内科の各科において医師が手薄の状態です。また、整形外科においては、京都大学、山口大学、関西医科大学、川崎医科大学、滋賀医科大学の医局から若手の精鋭が研修しており、大学に匹敵する程のスタッフが医療に従事していますが、昨年度より前述の診療科同様医師の数が減少し、一昨年14人いたスタッフも現在では11人となりました。医師数こそ手薄ではありますが、関節・脊椎・リウマチ・外傷・末梢神経等の様々な疾患に対して治療にあたり、年間1300症例を超える手術も行っています。しかし、現在の医療スタッフでは限界があることから、医師の確保に奔走しているところです。

この新医療制度の不備や、医師の不足に対して愚痴をいっても前進は見込めません。ある詩にこんな一節があります。「足もとばかり見てたら、行く先がわからなくなる。遠くの夢ばかり見てたら、足もとの石ころにつまずく。だから休みながら、のんびりのんびり遠くを見たり、近くを見たり、ゆっくりゆっくり今を楽しみながら。」

こういう時だからこそ、現状を理解して、大地に足を踏ん張りゆっくり前進していこうと思います。何より笑顔で頑張りましょう。笑顔は力をくれます。力をいっぱい頂いて前に進みましょう。

医療の現場から ～治療トピックス～

シリーズ～人工股関節置換術①

整形外科部長 池田 登



人工関節の発展により老化・変性した関節の再建が可能となり、人工関節は股関節や膝関節などの痛みを持つ人に多大な福音をもたらしてきました。しかし人工関節の歴史を振り返ってみると、多くの失敗のうえに今日が成り立ってきていると言っても過言ではありません。現在では人工関節は安全・確実に行われるようになり、長期成績も安定してきています。しかし、人工関節の耐久性などまだまだ解決しなければならない問題もあり、整形外科では研究がすすめられています。今回は、そのなかでほんの一部ですが、人工股関節全般について紹介させていただきます。

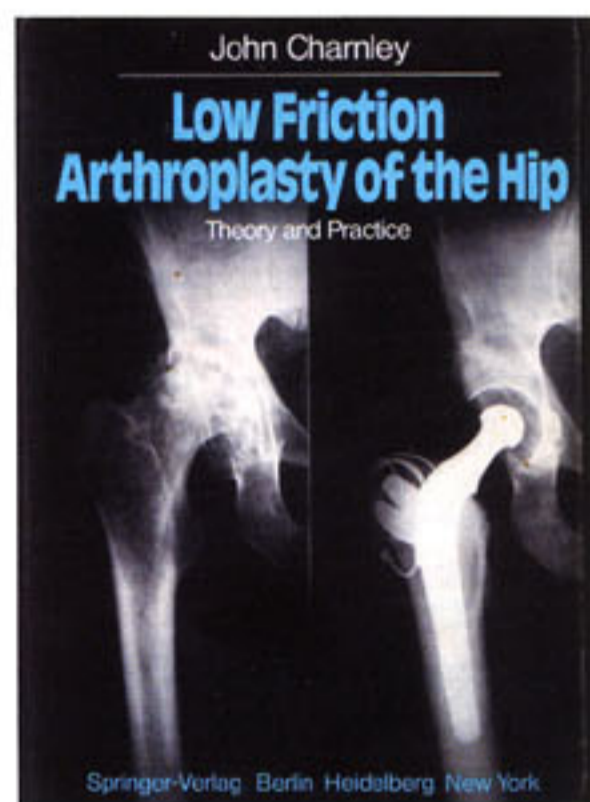


図1：チャーンレー先生の手術手技書

1. 人工股関節のはじまり

1890年ドイツで象牙を用いて行われた人工関節が世界で初めて行われた人工関節と言われています。しかしこの結果については詳細な記載がなく、はっきりしていません。その後いくつかの変遷があり、現在の人工股関節の原型は1959年、イギリスのチャーンレー先生が開発したポリエチレンと金属による人工股関節で、これが世界で最初の実用的な人工股関節といえます。(図1) 現在、使われている人工股関節の基本はほとんどがそのチャーンレー先生の業績に負うものです。

当院では1973年9月に当時の故田村哲男副院長によって、日本ではまだほんの数カ所の病院でしか行われていなかったこのチャーンレー式人工股関節置換術がはじめて行われ、現在に引き継がれています。

2. 人工股関節の素材について

股関節は骨盤と大腿骨の二つの骨をつなぎ合わせている関節です。(図2) 人工股関節も異なるふたつの材質からなる人工物からできています。

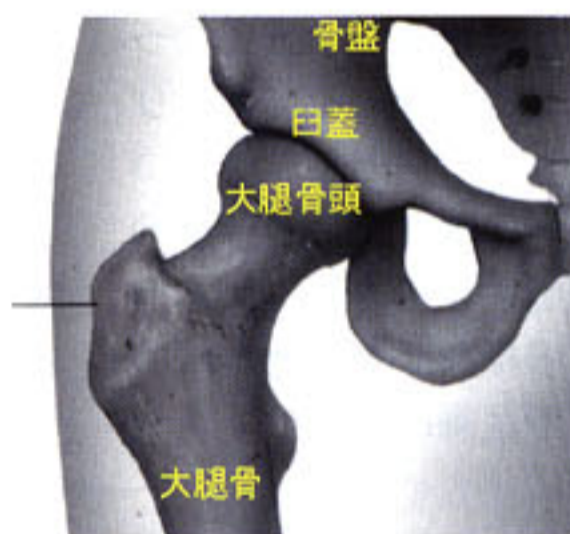


図2：正常股関節の解剖

人工関節は何らかの方法で骨と接合されなければなりません。大きく分けてセメントを用いて格子状となった骨のなかにセメントを圧入させて固定する方法(図3)と、セメントは用いず凹凸をもつ金属の表面と骨とを直接結合させる方法(図4)との2通りの人工股関節置換術が行われています。

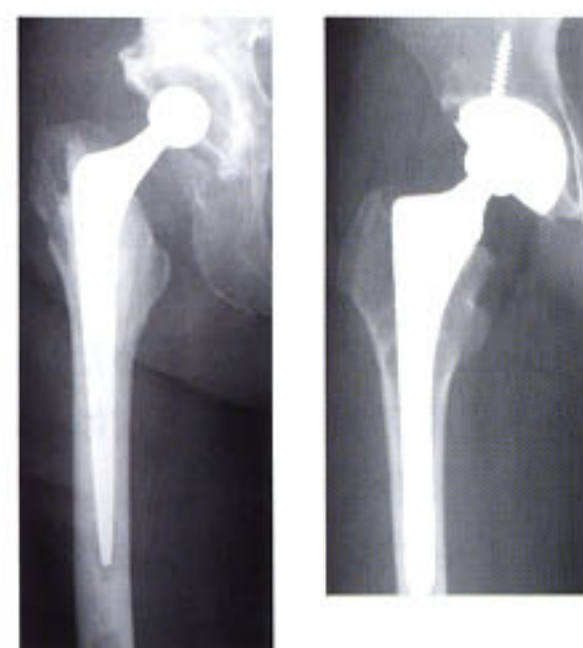


図3：セメントタイプ(左)

図4：セメントレスタイプ(右)

骨盤側の人工材料はソケットと言います。(図5) これはUHMWPEといって超高分子量ポリエチレンから作られています。このUHMWPEはプラスチックの1種で滑りやすく、すり減りにくくなっています。



図5：セメント用ソケット (JMM社)



図6：セメントレス用ソケット (ジンマー社)

また最近のポリエチレンはクロスリンク加工といって放射線や電子ビームをあてて、以前のものと比べ、いっそうすり減りにくくなっていて、長期生存が期待されます。当院で用いているセメントレス

タイプでは、チタン合金製の殻の外壁表面が凹凸となっていて、そこに人工骨を付着させこの殻と骨とが直接結合するようになっていきます。ねじを用いる場合もありますが、このねじに最終固定を期待するものではなく、骨とこのチタンの殻が直接結合するまでの間の一時的な固定（数ヶ月）がこのねじの役割です。このチタンの殻のなかにポリエチレンを入れたり、よりすり切れにくいセラミックを入れたりします。（図6）



図7：セメント用ステム（左）
（ストライカー社）

図8：セメントレス用ステム（右）
（ジンマー社）

大腿骨側の人工材料はステムと言います。当院ではセメントを用いるタイプは、特殊に加工されたステンレススチール製で表面がなめらかなものを用いています。（図7）この素材は昔チャーンレー先生が用いていたものとほとんど変わっていませんが、その金属の強さは向上しています。セメントを用いないタイプでは、その多くがチタン合金製で一部凹凸のある表面に人工骨が付着され、より骨とチタンがくっつきやすくなるようになっています。（図8）このステムの上に骨頭といって球形のものがかぶせられます。この骨頭はステンレススチール、コバルトクロムもしくはセラミックからできています。（図9）この骨頭がおわん型をしたポリエチレンの中を動くこととなります。（図10）よりすり切れにくく生体親和性に優れたセラミックが使用できるようになったことは人工関節の歴史の中でも進歩と言えるでしょうが、セラミックは陶器ですから、金属より割れやすいという欠点も持っています。

骨頭の大きさについてはチャーンレー先生が22ミリの大きさが一番すり切れにくいのだと言われて、長らく22ミリばかりが使われていたのですが、ソケット側によりすり切れにくいクロスリンクされたポリエチレンやセラミックが用いられるようになってから、26ミリや28ミリのより大きな骨頭も用いることができるようになりました。この大きなサイズの骨頭を用いることができるようになって股関節の曲がりより大きくなると期待されています。

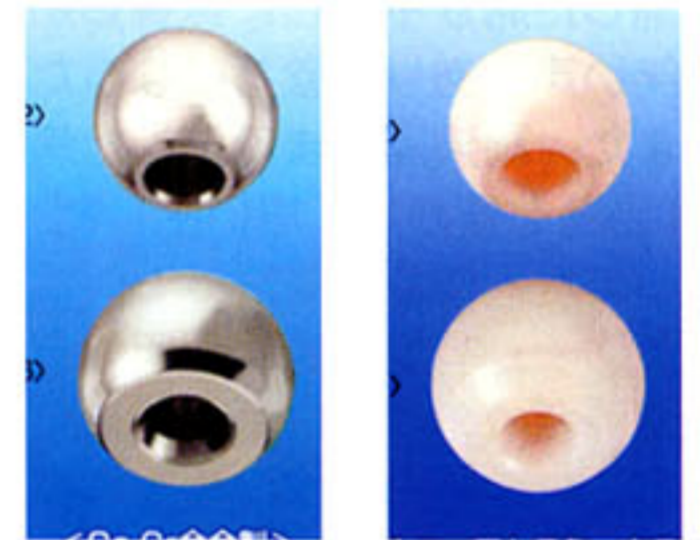


図9-1

図9-2

金属骨頭（JMM社）セラミック骨頭（JMM社）

3. 人工股関節手術の手術時期

「人工関節はいつ手術を受けたらいいのか」とか「手術が遅れて、手遅れはありませんか」といった質問をよくされます。模範的な解答は、はじめての手術の場合は手遅れということではなく、患者さんとご家族にとって最もいい時期がベストといえます。人工関節を入れて「1～2週間で退院できます」というふれこみで患者さんがたくさん集まっている病院もありますが、実際には患者さんのほとんどがお年寄りなので、あまり早い退院は患者さんも望まれません。ただ、こんな大きな異物が体の中に入るので、これに慣れるまでには人によって異なると思いますが、1年はかかると思います。手術をして2～3カ月くらいは、ある程度、自由は効かないと思いますのでそのことを十分注意して手術時期を決めて下さい。

しかしながら、いつでもいいとって時期を逸するといくつかの問題があります。関節の曲がりや足の開きに関しては、手術前の動きに大きく影響されます。手遅れになって手術を受けると、痛みはなくなりますが、動きの悪い関節になってしまいます。もうひとつは、手術を怖がってあまり待っていると、だんだん年をとってきます。そのうちに、心臓疾患や脳疾患などの病気になったりして、手術を行うこと自体が危険になってきて内科や麻酔科の先生からストップがかかることもあります。最も適切な時期は早いうちから、医師と相談して決めると良いでしょう。

不幸にも人工関節が破綻して、人工関節の入れ替えの手術が必要な場合があります。この入れ替え手術を行う時期のタイミングは、はじめて行う手術と異なり、手術を行う医師が決めます。手遅れになると骨が減ってきて手術の手技も難しくなり、あまりいい成績が期待できないからです。この結果の善し悪しは医師による判断と手術手技によって大きく左右されます。セカンドオピニオンも重要です。また後で述べますように、定期的な検診で経験豊富な医師によって判断してもらうことも重要です。



図10

ポリエチレンと骨頭（JMM社）

（シリーズ第2話に続く。次話は人工股関節手術の実際、その後の生活について掲載いたします）

創立 60 周年記念 健康講座 好評をいただきました

平成17年11月19日(土)に、「若々しく長寿を過ごすために」のテーマで、病院誕生の地、現在の玉造厚生年金保養ホーム(当時の旅館『暢神亭』跡地)にて健康講座を開催いたしました。60周年(還暦)を迎えられたのも、開設以来地域の皆様の温かいご支援の賜物と感謝し、皆様の健康維持に役に立つことが出来たらと、当院の医師による健康講座を60周年記念事業の一つとして計画実施しました。

当日は、生憎の小雨模様のお天気でしたが、80席準備した席が不足し、急遽追加したほどでした。講演中に笑い声もあり、「参考になった。」「楽しかった。」と感想を、また、講演開始まで流した病院60年の歩みの映写には、「当時を懐かしく思い出した。」と好評をいただきました。

また、開催に先立って、ポスター掲示、お知らせの回覧、また有線放送の利用など快くご協力くださいました関係各位の皆様には紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

これからも皆様の健康維持・増進にお役に立てればと思っております。

(文責 大久保 圭子)

講演内容

「背骨の話」

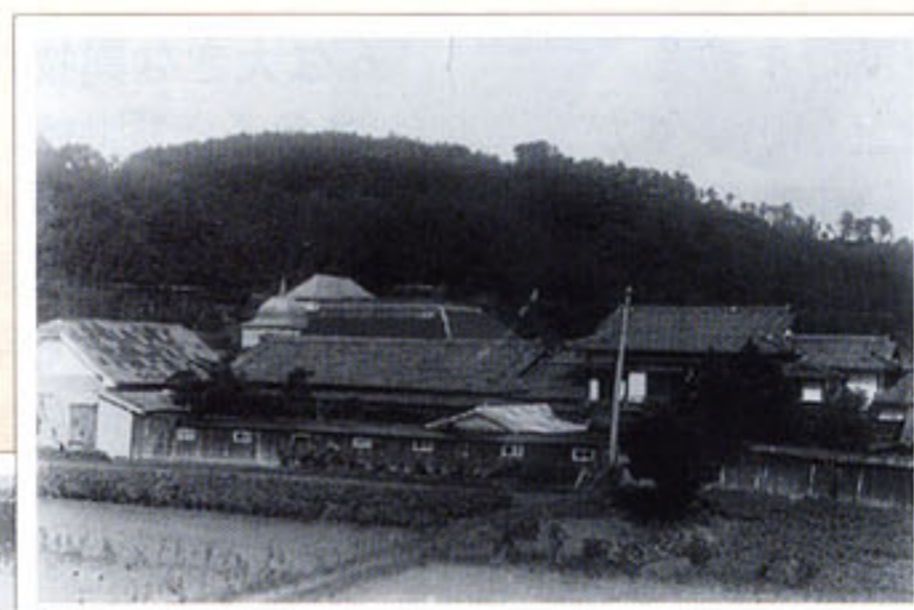
玉造厚生年金病院 副院長 千束 福司

「食事の話」

玉造厚生年金病院 内科部長 芦沢 信雄



当時の旧病院の様子



療養所全景



療養所玄関門札



病室前のようす



義肢室スタッフ

義肢室の業務とは

義肢室とは、どんな仕事をするところか、皆様の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、簡単にいうと義肢や装具の適応患者様に対し医師の処方を受け、義肢装具の製作、修理、及び義肢装具についての相談などをお受けする所です。この義肢室は、当院が開設された翌年の昭和21年に設置され、それから約60年間、義肢装具の製作を行って参りました。

では、義肢装具とはどんなものでしょうか。

“義肢”とは、不幸にして病気や事故等により四肢の一部を欠損した時に、元の手足の形態または機能を復元するために、装着使用する人工の手足のことをいいます(義足・義手等)。

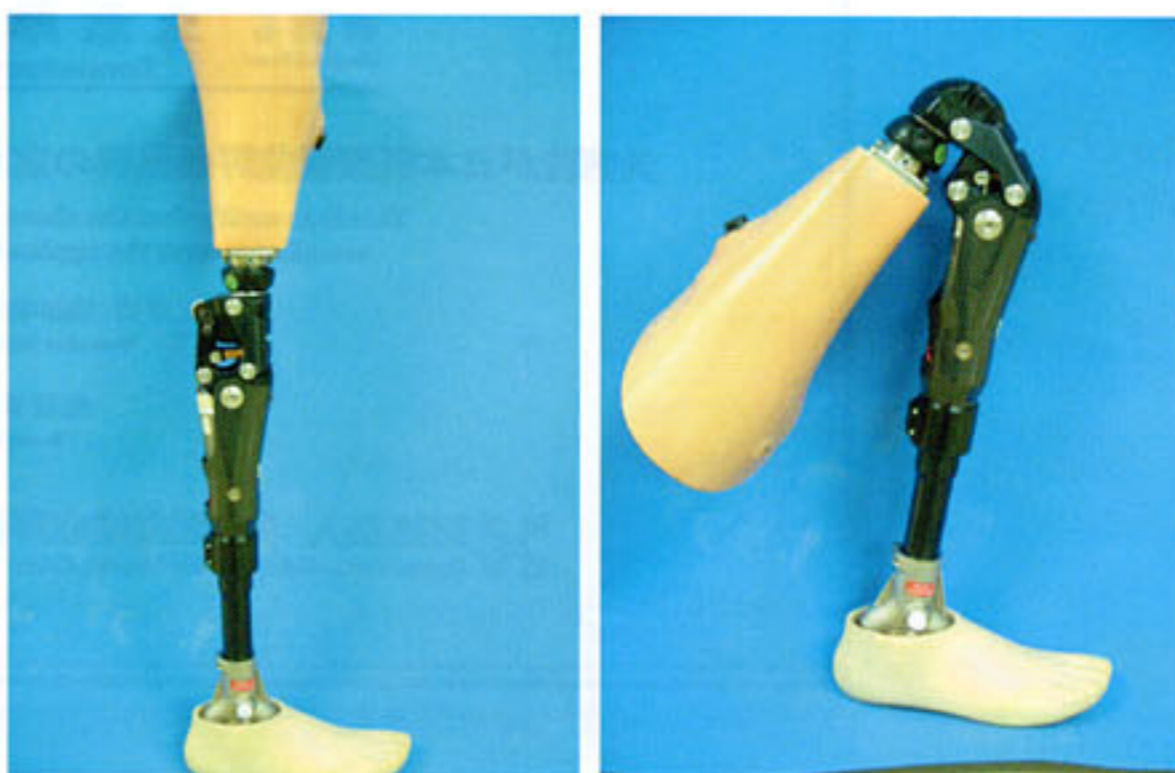
また、“装具”とは四肢・体幹の機能障害の軽減を目的として使用する、コルセットや膝装具、短下肢装具等の補助器具の総称です。

近年、義肢装具の分野においてもあらゆる先端技術が取り入れられ、益々高度複雑になり、専門的技術及び医療知識が必要となってきました。そのため昭和63年に国家資格制度による義肢装具士が誕生しました。

現在、当院の義肢室では、この4名の義肢装具士により業務を行なっております。マイコン付きの義足など、高機能な義肢も多数製作しています。今後更に患者様のご要望をふまえ、よりよい義肢装具の製作を行ってまいりたいと思います。

(文責 渡部悦郎)

【 大腿義足 】



膝関節にマイコンを使用し、歩く速さを自動的に調節出来る。膝は160°まで屈曲可能。

【 靴型短下肢装具 】



下肢の麻痺における足関節の動きを制御し、正常歩行に近づける

日本医療機能評価機構認定病院

当院は、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、平成17年12月19日付にて認定証の交付を受けました。

この結果に満足することなく、より一層医療の安全、安心、サービスの向上に努めてまいります。



表紙の写真

花の少ない季節にとっても上品な香りを漂わせて咲く「蠟梅」です。正しくは素心蠟梅（ソシンロウバイ）と言う名だそうです。蠟のように半透明な花弁が柔らかな印象を与えてくれます。花言葉は「先見」、「慈愛」です。花弁が蠟のようにになっているのは、寒さや霜から身を守るためともいわれています。まさに「先見」です。もうすぐ春。私達も蠟梅のように心身を引き締めて来るべき季節を迎えたいものです。(F.S)

編集後記

イタリアのトリノでは、80の国や地域から約5000人もの選手・役員が参加して冬季オリンピックが開催されました。今年の冬は、山陰の平地でも12月から数年ぶりという積雪を記録し、山間地では根雪となったところもありました。そのせいでしょうか、この冬が“長〜く”感じられた方も多かったことと思います。柔らかい光に誘われ、ふと窓の外に目をやると、周りの草木も光を浴び、春の芽吹きも感じられるようになってきました。待ち遠しい春も、もうそこまできています。(K.T)

■ 編集・発行責任者 上尾 豊二

〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2

TEL 0852 (62) 1560

<http://tamahosp.jp>

夕映えのバックナンバーはホームページでもご覧になれます。